

総合工学委員会

エネルギーと科学技術に関する分科会（第 25 期・第 1 回）議事録

日時 令和 3 年 1 月 15 日（金）15:00～17:00

会 場 遠隔会議（主催会場：愛知工業大学総合技術研究所）

出席者：疇地宏委員長、山地憲治副委員長、岩城智香子幹事、齋藤公児幹事、朝倉薫委員、伊藤公孝委員、犬竹 正明委員、大久保泰邦委員、大野恵美委員、兒玉了祐委員、近藤駿介委員、笹尾真実子委員、鈴置保雄委員、藤田修委員、三間罔興委員、矢川元基委員、和田元委員 計 17 名

配布資料：

資料 1-1：総合工学委員会分科会の設置について：エネルギーと科学技術に関する分科会-

資料 1-2：総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会委員名簿

資料 2-1：ハイパワーレーザー技術と高エネルギー密度科学小委員会設置提案

資料 2-2：ハイパワーレーザー技術と高エネルギー密度科学小委員会設置委員名簿

資料 3：持続可能な開発目標達成のための洋上風力発電開発検討小委員会設置提案

資料 4-1：熱エネルギー利用の社会実装基盤小委員会設置提案

資料 4-2：熱エネルギー利用の社会実装基盤小委員会名簿

議事

- 1) 委員長の選任および副委員長、幹事の指名
 - ・ 委員長の互選を行った。疇地委員を推薦する意見があり、全会一致で疇地委員を委員長とすることとした。
 - ・ 委員長より、副委員長として山地委員、幹事として岩城委員、齋藤委員が指名され選任された。
- 2) 総合工学委員会の委員について
総合工学委員会において、25 期の委員として各分科会からは原則 2 名とすることが決定されたことを受けて、ジェンダーバランスも考えて、疇地委員長と岩城幹事の 2 名と決定した。
- 3) 小委員会の立ち上げ
 - ① 三間委員より資料 2-1 及び資料 2-2 をベースに、「ハイパワーレーザー

技術と高エネルギー密度科学小委員会」設置提案に関して、経緯説明があった。前期に提言を行い、今後の産学連携の重要性を盛り込んだ関係で、今期はそういった点に配慮してメンバー構成に反映していきたい旨の説明があった。産業界との連携の具現化に向けての取り組み強化と物理分野との意見交換の場の設置のほか、最終的には今期は提言ではなく、報告に留めるが、シンポジウムを開催し、世の中に発信することが重要との意見があった。上記を受けて小委員会の設置は承認された。追加メンバーに関しては候補を提出して判断は分科会幹事団への一任となった。

- ② 大久保委員より資料 3 をベースに「持続可能な開発目標達成のための洋上風力発電開発検討小委員会」の設置経緯の説明があった。今期は洋上風力に絞った小委員会の活動としたい旨の説明があった。特に具体的な調査、ガイドライン作成等や日本に於ける特殊性を十分反映させた取り組みとしたい等を実施していただく。委員候補は現在 5 名強あり、その他 NEDO、日本風力発電協会等のご参加を予定している等の説明があった。上記を受けて小委員会の設置は承認された。小委員会メンバーに関しては候補を提出して判断は分科会幹事団への一任となった。
- ③ 岩城委員より資料 4-1 及び資料 4-2 をベースに「熱エネルギー利用の社会実装基盤小委員会」の設置経緯の説明があった。今期は熱エネルギー利用技術の集約と市場ニーズの統合について議論し、熱エネルギー利用促進に必要な社会基盤について検討し、課題抽出と社会実装に重点を置くこと等、またシンポジウムのアイデア、また構成メンバー含めて説明があった。上記を受けて小委員会の設置は承認された。

なお委員会名簿が未確定の小委員会については、2 月 17 日までに委員長宛てに、名簿を提出することとした。

4) 特任連携会員について

岩城委員から、分科会での特任連携会員として、藤岡恵子氏（株式会社ファンクショナル・フルイッド代表取締役）を推薦するとの提案があった。前期も特任連携会員であったこと、分科会での長年の重責を果たされたこともあり、承認された。

5) その他（分科会の運営に関するフリー議論）

- ・本分科会の議事録の最終承認は委員長に一任することで承認された。
- ・メールアドレスの共有に関しては本分科会委員内での限定というスタ

ンスで承認した。本日欠席の委員に関しては、事務局の柳原様から確認いただくこととした。

- ・今後の分科会の運営に関しての議論の前に、全員の自己紹介が実施された。本分科会が基本的には小委員会での活動をベースでその活動は非常に活発であるが、同時に分科会全体としての俯瞰的な視点が重要であり、期の途中に新たな小委員会の設置や議論する場を設けるべきとのご意見があった。議論の中では、今回の学術会議での報道等で如何に学術会議の活動を一般に知らしめていくかという広報的な部分を強化すべき、きちんと実施しているシンポジウムの一般への公開を更に積極的に実施したりすることも必要、学術会議の HP の更なる見易さを追求すべき、学術会議でオンラインシンポジウムの開催も検討すべき、最終的にはライブラリー化までを目指すべき、これらを第三部への意見上申をしていくことは重要である等々のご提案があった。

- ・分科会は年 2 ～ 3 回程度の頻度で開催を予定。次回分科会は夏前頃を予定する。必要に応じメール審議で対応するようにする。

(以上)